

## 1月6日 校長講話

今日から、2023年の学校がスタートします。あと47日で6年生は卒業、他の学年の人は今の学年が修了する予定です。1日1日を大切に、きっちりまとめをし前進する47日にしてほしいと思います。

さて、お正月に習字をした人が多いと思いますが、今日のはじめはこの「文字」についてお話をしたいと思います。縁起のいい「ふく」幸せの「ふく」という文字です。この字を書いた方を紹介します。

うらがみ ひでき さんです。この写真で気がつきましたか。口で筆をくわえて書をお書きになっていますね。

浦上さんは、体に力が入らなくなる、治ることが難しい難病を21歳の時突然発症したそうです。どんどんと力がはいらなくなりとうとう車椅子もこげなくなった37歳の時にはじめたのがこの書「こころ文字アート」だったそうです。

「こころ文字アート」とはなんでしょう。実はこれは一見福という漢字なのですが、浦上さんはこの1文字の中にご自分のこころの想いをひらがなでデザインしてあるのだそうです。じーっと見つめてみてください。ひらがなの言葉がみえてきたでしょうか。

こめられたひらがなは ふ つ う の こ と という言葉です。

そこに込めた浦上さんのこころを紹介します。

「ぼくは思います。普段通りの暮らしがおくれることは本当はそれだけですごく運がいいことです。そのことに気づけると幸せになります。なにか特別なことでなく、ふつうのことがどれほど幸せであるか。文句を言っではいけないのだと思い、福の文字に「ふつうのこと」というメッセージをいれました。」

とのことでした。

浦上さんは、今でも1日1日病気が確実に悪くなる中、いろんなこの文字アートを作って大活躍されています。すごいですね。

私たちも、ふつうの1日1日を文句を言わず、幸せ、ありがたいと思ってがんばるそんな1年にしてほしいと思います。

今日は時間がないので、また機会があったら違う文字についてもお話したいと思います。

2023年スタート 笑う門には福来たる



浦上 秀樹さん



さて、もう知っている人もいると思いますが、2023年は四賀小学校150周年の大事な記念の年となります。この四賀小が150歳をむかえるということです。色んな場面でみんなでお祝いする気持ちですごしていきたいと思っています。その1つとして今日は、縁起のよい新年出発にあたり1つみなさんに提案をします。

テレビ信州里山プロジェクトといって、ふるさとを大切にしようというという大きな活動がはじまっており、テレビでも何度も放送されてきています。

その時の公式テーマ曲に「星唄」が選ばれました。公募といって応募された中から選ばれたのです。

きっとどこかで聞いたことのある人が一杯いると思います。すばらしい信州のふるさとを守りたいという大事な活動のテーマ曲が「星唄」です。

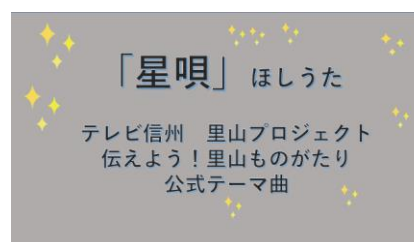
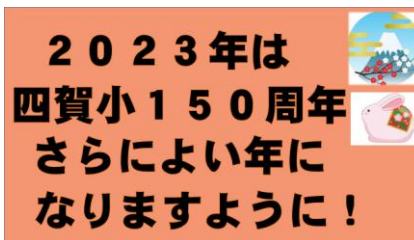
この曲を作曲したのは、ツケメンという大人気の音楽グループのリーダーで子どもの頃諏訪市に住んでいたTAIRIKUさんという方です。とてもきれいなメロディーです。そして、歌詞を考えたのが・・・

見えますか？もう気づいた人もいますかね？

少し大きくしましたよ。そうです。作詞：なんと諏訪市立四賀小学校の児童たちとなっているのです。

ということは、「きみと歩いたこの道」とは学校へのこの上り坂かもしれません。「一緒にながめた湖というのは？」この四賀から見える諏訪湖なのでしょう。「いつも心の中にある ぼくらのふるさと」というのはこの四賀のことを言っているのです。

私はこの唄は知っていましたが、まさかその時の四賀小学校の児童が作詞したとは知りませんでした。そして、すごくうれしく思いました。すごいことだと思いました。



里山 ～ふるさとの野山 原風景～



「伝えよう！里山ものがたり」は里山に生きる信州の人々がふるさとを守り育てるためのプロジェクトです。



TSUKEMEN (ツケメン) のリーダーとして活動。父はシンガーソングライターのさだまさし。

「里山ものがたり公式テーマ曲」の「星唄（ほしうた）」は、ふるさと信州の美しい風景をイメージして大陸が作曲。

そして、作詞は「」

### 合唱曲「星唄」

作詞：諏訪市立四賀小学校の児童たち  
 編作詞：TSUKEMEN / 森 千寿  
 作曲：TAIRIKU  
 編曲：森 千寿

この広い宇宙（そら）にきらめく星は  
 いっつもぼくらをつつんだ  
 手をつなぎ きみと歩いたこの道は  
 どこまでも続いている

一緒に眺めた湖 ひより見上げた空  
 いっつも心の中にある ぼくらのふるさと

小さな星でも 願いは叶うきつと 輝け ぼくたちの星

この広い宇宙（そら）にながれる星の軌跡に願いをこめて  
 着くまで きみと歩いたこの町で  
 いっつも生きてゆきたい

一緒に登った山々 ひより泳いだ川  
 いっつも心の中にある ぼくらのふるさと

小さな星にも 願いは届くきつと 輝け ぼくたちの星

ラララ・・・  
 ぼくらの想いのせて  
 未来（あした）へ届け 星唄

**どうでしょう。皆さん。私たちこそこの唄を歌い  
ませんか。**

**そして、四賀小の大事な1曲として歌いついで  
いきませんか。この150周年の年のお祝の1つと  
して、これからいろんな時にみんなでこの曲を歌  
えるようにまずは練習をはじめていくようお願い  
します。**

**それでは、最後に曲をきいてもらおうと思いま  
す。**

**これで今日の校長先生のお話を終わります。**

TSUKEMENの3人、主にT AIRIKUさんと  
諏訪市立四賀小学校の児童たちとの交流の中で  
誕生した、合唱曲「星唄」。

その歌詞には、  
～ふるさと～  
「諏訪市四賀小のまわりの里山」への純粹  
な思いがちりばめられています

この150周年を機会にこの曲を  
四賀小の大事な1曲として  
私たちが歌いついでいきましょう